

ハリー・オーガスト、15回の生涯 (以下、すべてのネタを明かしています)

1回目 ハリーは1919年1月1日に駅の婦人用洗面所で誕生した。父は資産家のローリー・エドモント・ヒューン、母は女中のエリザベス・レッドミル。母はハリーを産む際に失血死する。子供のいないオーガスト夫妻が、ヒューン家の援助と引き換えに彼を引き取ることになる。赤毛で薄い灰色の目、耳は小さく、鼻が上を向いている。第二次大戦に徴兵され、ノルマンディー上陸作戦に参加。戦後はヒューン家の管理をして過ごし、1989年に多発性骨髄腫で死ぬ。

2回目 4歳までに最初の人生の記憶が蘇る。子供の身体に大人の記憶が宿ったため混乱、絶望し7歳で精神病院に。半年後に三階の窓から飛び下りて死ぬ。

3回目 慈悲深い行いに励んだり大きな出来事を変えたりすれば、このサイクルを断ち切れるのではと考え、1927年に訪れる母ハリエットの病死を防ごうと懸命に看病するが、果たせず。母の葬儀でローリーが本当の父だと気づく。徴兵され、整備士として英国空軍に入る。戦後、エジプト、イスラエル、インドと諸国を渡り歩いて宗教に救いを求める。バンコクでシェン氏と出会い、日本の病院で死ぬ。

4回目 科学に答えを求める。エジンバラ大学を首席で卒業。グラスゴーの病院で医師として働く。外科医ジェニーと1963年に結婚。本当のことを打ち明けると妻は去り、追いかけたハリーは精神病院に送られる。フランクリン・フィアソンが病院を訪れ、「我々の中に不死の人間が隠れて生きており、クロノス・クラブという結社を作っている」という情報を教えてくれる。1973年にハリーは屋敷に監禁され、そこを逃げ出し手紙と広告（クロノス・クラブ/助けをこう）を出す。再び捕まり拷問される。広告を見たヴァージニアが屋敷にやって来て、「1940年7月1日午後2時トラファルガー広場で会おう」と約束する。その日、ハリーは大腿動脈を切り裂いて死ぬ。

5回目 父ローリーに向けて、自分の体験を第一次大戦の兵士に置き換えた手紙を書く。1940年7月1日にヴァージニアと再会し、クロノス・クラブの歴史を知る。【紀元前3000年前後のバビロンで組織は生まれた。1740年代にサラ・シオーバン・グレイがボストンで20~30人ほどの仲間を発見。中世から21世紀までクラブがつながる。】ヴァージニアは600年振りの新人となるハリーの世話役だと語る。また、生まれた日時と場所は他の仲間に明かさないように助言する。カーラチャクラは、薬物・手術・電気ショック等による「忘却」も可能であるが、それとは別に、意識が芽生える前に殺されると二度と生まれえないからだ。

1640年代にヴィクトル・フーネスという男がフランスに知識を与え、歴史を大きく変えた。1693年に蒸気機関車、1701年に装甲艦が発明される。結局、核の冬が訪れ、1953年までに地上の生物は死滅した。クロノス・クラブはフーネスを殺すことを決めたが、すべてを記憶しているネモニックのコッホだけが反対した。「世界の変革を求めるか、身内を容赦なく断罪する裁定人になるか」どちらかだ、と。ハリーは、自分もネモニックであることに気づく。



角川文庫 2016年8月15日発行

ここに注目! by w

世界の変動要因

ハリー「何度生まれ変わり、何度死んでも世界に変わりはありません。／1917年にはかならずロシアで武装蜂起がはじまり、1939年には第二次大戦が勃発し、ケネディは暗殺され、汽車は遅れる。／変動要因はわれわれカーラチャクラのみ。世界が変わっているのなら、われわれが変えているんです」(p.158)

いまが大事

イスラエルの農夫の妻「過去は過去。今日のはあなたに生きていて。大事なのはそれだけ。今日生きているあなたこそが、本当のあなたなんだ。あなたがあなただってことを、絶対に絶対に悔やんじゃいけない。過去を悔やむのは魂があることを悔やむのと一緒だよ。」(p.224)

6回目 物理学を通じてカーラチャクラの秘密に迫ろうとする。1945年にケンブリッジ大学で専任講師をしているときにヴィンセント・ランキスに出会い、多元宇宙論やタイム・パラドックスについて論ずる。

7回目 結婚して二人の子がいるジェニーと再会する。

8回目 1951年、娼婦ローズマリーを殺したリチャード・ライルを殺そうとしたハリーは逆にナイフで刺されて殺される。

9回目 1948年、ライルがローズマリーを殺す前にハリーはライルを殺す。

10回目? (1952年、エリザベスという英文学博士と結婚していたハリーは晩年の父ローリーから手紙をもらいホーリー島まで会いに行く。親子の感情的なすれ違い。)

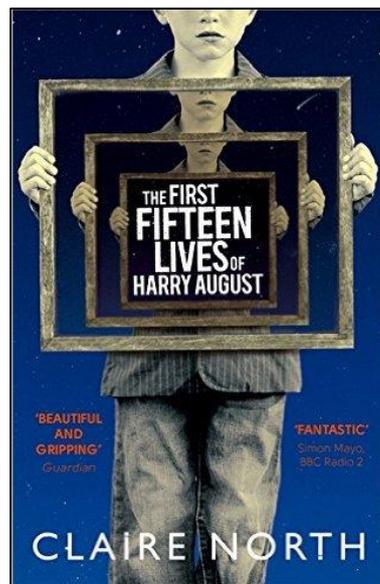
11回目 1996年、78歳のハリーは死ぬ間際に7歳の女の子クリスタから「世界の終わりが早くなっている」というメッセージを受け取る。

12回目 6歳のハリーはクロノス・クラブのロンドン支部にメッセージを伝えるに行く。ハリーは1950年代までに投資ビジネスで儲ける。本来なら13年後に見つけられる技術を用いて無線送信機を開発したドイツ人ファン・ティールから、モスクワのヴィタリ・カルペンコに技術を教わったと聞いたハリーは1956年にソ連に潜入。ピエトロク112地区でカルペンコ=ヴィンセント・ランキスに再会する。協力して量子ミラーを作らないかという申し出にハリーは「イエス」と答える。十年研究し、あと5回生きれば完成という域に達する。5回生きる目的は、テクノロジーの促進=「20世紀の尻を蹴飛ばして21世紀に送りこむ」こと。しかし、ヴィンセントはクロノス・クラブのレニングラード支部を消滅させていた。研究を中断すべきだと主張したハリーは拘束され、生誕場所と日時を教えろと拷問される。電気ショックで「忘却」させられるが、効果はなく、すべてを覚えていた。そのまま殺される。【その後、1965年を境に、クロノス・クラブのメンバーが次々と忘却させられ、殺された。】

13回目 6歳(750歳)になってロンドンのクロノス・クラブへ行くが、クラブは消滅していた。15歳になり、再度ロンドンへ出てきて調査すると、1909年にクラブが解散していたことがわかる。ウィーンでカーラチャクラの一人がメッセージを残していた。1894年を境に、「忘却」して生まれてくる者や生まれない者が多発し、クラブが壊滅したのだという。1958年に北京へ行き、クラブの生き残りやと接触。クラブを消滅させた犯人が1890年前後に生まれた者だと推測する。1931年に別のカーラチャクラが殺害に加わり、被害は急増。1960年に、南アフリカで犯人の一人ヴァージニアを見つけ、「忘却」させる。ヴィンセントを探すが、見つけられず、2003年に85歳で死ぬ。

14回目 歴史学を学ぶためにケンブリッジ大学奨学生に応募し、合格する。ジェット機、腎臓移植、カラーテレビ、この世界ではすべてが早く開発されていた。裏で糸を引いているのはヴィンセントであり、ジャーナリストとなったハリーは、ついにサイモン=ヴィンセントと再会する。1975年には携帯電話、1977年には電子メール。科学技術は暴走していた。1978年にサイモンはジェニーと結婚。1986年、癌を発症したハリーにサイモンは秘密を告げ、再び電気ショックで「忘却」させようとするが失敗し、ハリーは死ぬ。

15回目 6歳でチャリティが迎えに来てくれる。クロノス・クラブは復活しつつあった。ハリーが16歳の時、9歳のヴィンセントと会う。1941年、軍で再び出会い、以後行動を共にする。スイスの研究所で完成間近の量子ミラーを見せられる。ハリーは完成を妨害し、量子ミラーは爆発。二人は放射能障害で瀕死状態になる。その中でヴィンセントはハリーに自分の来歴を明かしてしまう。ハリーはヴィンセントに手紙を書き【この小説がその手紙】、君の負けだと宣言する。次の人生でハリーはヴィンセントの親を殺し、彼の誕生を阻止できるのだ。



ここに注目! by w

フレッド・ホイル登場

ヴィンセント「結局、教授にはなれたんですか?」ハリー「は? ああ、最終的にはね。その前にフレッド・ホイルのやつに、殴られそうになったが」(p.255)

量子ミラー

ヴィンセント「陽子や中性子を結びつける力は、とりもなおさず宇宙を、空間を、時間を結びあわせていると考えられるわけであり、いわば鏡を掲げて存在そのものの本質を映し出すのが……」ハリー「量子ミラー!」

(p.261) ↑さっぱりわかりません(W)

まっとうが一番

「あなたが老化を止める方法を編みだしても、飢餓をなくしても、核戦争を終わらせても、ここや……」ソフィアは私の額を指の関節で軽くたたいた。「ここが——」胸に手をおしあてた。「お留守だったら意味ないの。なぜって全人類を救っても、あなたの魂は死んでいるから、人はまっとうであることが一番。頭のよさは二の次よ」(p.289)

付録 時間SF分類表（浅見克彦『時間SFの文法』より）

1 タイム・トラベル（意志と計画にもとづくもの）

歴史改変型	ウエルズ『タイム・マシン』／カミングス『時間を征服した男』／ハインライン『夏への扉』／ハリスン『テクニカラー・タイムマシン』／シルヴァーバーグ『時間線を遡って』／シャピロ『J・F・ケネディを救え』／アンダースン『タイム・パトロール』／ロバーツ『バヴァーヌ』／ディック『高い城の男』／ディ・キャンプ『闇よ落ちるなかれ』／アシモフ『永遠の終り』／アニメ『時をかける少女』／ハーネス「時の娘」／梶尾真治『クロノス・ジョウンターの伝説』成り代わり（ムアコック『この人を見よ』／ウェルマン「ルネサンスへ飛んだ男」／半村良『戦国自衛隊』） 時間変調（ブラッドベリ「雷のような音」／ウィングダム「クロノクラズム」／シルヴァーバーグ「時間層の中の針」他） ラヴ・ロマンス（梶尾真治「美亜へ贈る真珠」／佐藤史生「金星樹」／ヤング「たんぼぼ娘」「時が新しくなったころ」／ミラー「時の砂」／マシスン『ある日どこかで』／ファイラー「時のいたみ」）
歴史不変型	ハインライン「時の門」「輪廻の蛇」／眉村卓「悪夢の日」／ラインスター『タイム・トンネル』／映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』『タイム・ライン』／アンダースン『時の歩廊』／小松左京「時の顔」／広瀬正『マイナス・ゼロ』／光瀬龍『寛永無明剣』／チャン「商人と錬金術師の門」／バスター「選り好みなし」／エフィンジャー「時の鳥」／乾くるみ『リピート』

2 タイム・スリップ（否応なく強いられるもの）

	ディッケンズ『クリスマス・キャロル』／トウェイン『アーサー王宮廷のヤンキー』／フィニー『ふりだしに戻る』「二度目のチャンス」「レベル3」「ゲイルズバーグの春を愛す」／ブラッドベリ「交歓」／クリンガーマン「緑のベルベットの外套を買った日」／シラス「かえりみれば」／梶尾「再会」／パイパー「いまひとたびの」／筒井「秒読み」／北村薫『スキップ』／栗本薫「時の石」／星新一「午後の恐竜」／ソウヤー『フラッシュフォワード』／ハインライン『自由未来』／ホイール『10月1日では遅すぎる』
反復世界の	ルポフ「12:01PM」／スミス「倦怠の檻」／スチャリトク「しばし天の祝福より遠ざかり……」／映画『恋はデジャ・ブ』『8ミニッツ』／筒井「しゃっくり」／北村『ターン』／星「時の渦」／桜坂洋『All You Need Is Kill』／ベイリー『永劫帰郷』／ディック「時間飛行士へのささやかな贈物」／ワトスン「夕方、はやく」他
シャッフル	ヴォネガット『スローターハウス5』／バズビー「ここがウイネットカなら、きみはジュディ」／映画『シャッフル』『きみがぼくを見つけた日』／高畑京一郎『タイム・リープ』／小林泰三「酔歩する男」
逆行もの	フィッツジェラルド「ベンジャミン・バトン」／ライバー「若くならない男」／ディック『逆まわりの世界』／オールティス『隠世代』／ベイリー『時間衝突』／ティプトリー「故郷へ歩いた男」／ワトスン「超低速時間移行機」他
異時間通信もの	フィニー「愛の手紙」／リー「チャリティのことづて」／乙「Calling You」／ブリッシュ「ピープ」／ホーガン『未来からのホットライン』／ベンフォード『タイムスケープ』／映画『オーロラの彼方へ』／クライン「ルネサンス人」／ヴォークト「フィルム・ライブラリー」／ブラウン「鏡の間」／デヴィス「受話器の向こう側」他

3 並行世界への跳躍

	グリムウッド『リプレイ』／バクスター『タイム・シップ』／ニーヴン「ガラスの短剣」／アンダースン&ピースン『臨界のパラドックス』／ディック「ジョンの世界」／クライトン『タイムライン』／アンブローズ『リックの量子世界』
偶然世界型	ムーア「出会いのとき巡りて」／アシモフ「もし万一……」／ウィリアムスン『航時軍団』／ラインスター「もうひとつの今」／マッキントッシュ「第十時ラウンド」／フィニー「コイン・コレクション」／ボルヘス「八岐の園」／ニーヴン「時は分かれて果てもなく」

4 自己重複

	マッソン「二代之間男」／チャンドラー「漂流者」／石川喬司「五月の幽霊」／テン「おれと自分と私と」／ハインライン「時の門」／レム「第7回の旅」／筒井「チューリップ・チューリップ」／映画『12モンキーズ』／ディレイニー『エンパイア・スター』他
--	---

5 時間の果てをのぞむ

	ニーヴン『時間外世界』／ジュリ『不安定な時間』／小松『果しなき流れの果に』／恩田陸『ライオンハート』／山田正紀『チョウたちの時間』／ブリスト「限りなき夏」／バラード「永遠の一日」「時間の墓標」「結晶世界」／ベンフォード「時空と大河のほとり」
--	--

浅見克彦『時間SFの文法』主題要約

時間SFは1980年代以降の日本文化、現代文化に漂う空気と通じ合っている。それは、時が新たな未来を望む意識を裏切りながら空転するようなムード、すべてが停滞し凍結していくような感覚、閉塞感である。

悲惨さや愚劣さを繰り返す人間の性を思うとき、近代以降の自由と自律、平等への懐疑が生じる。その懐疑が現実の拒絶に傾くとき、人々は決定論的な時間世界に真実性を予感する。それは現代文化を生きる者たちの想像的な求めとシンクロしているのではないか。

cf. 小松左京『果しなき流れの果に』

「フィードバックするのさ」と野々村は、ホアンの腕をつかんでいった。「二十五世紀で、三十世紀で、達成された認識を、全面的に一万年前の世界に、フィードバックするんだ！ 一万年前の世界に、三十世紀の科学と知識をうえつけるんだ——一万年かかってやっと到達できる知識を、もう一度もどしてやるんだ」「そんな……」ホアンは、ちょっと絶句した。——唇をなめて、まじまじと野々村の顔を見つめた。「歴史がかわっちゃうぜ」「歴史を変えて、なぜいけない？」（第9章「狩りの終末」より）

次回予定 2017年 月 日（ ） 作品『 』

名古屋SF読書会URL <http://www.ne.jp/asahi/science/fiction/dokusyokai/>